

第一学期 終業式

大高定時便



七月二十一日（火）に一学期の終業式が行われました。原 昌紀校長より「一学期は新型コロナウイルスや大雨の影響により、学校が臨時休業となり、授業が十分に行われなかった。また学校行事や定通大会などの行事も中止になったりして、思うような学校生活ができなかったが、夏休みは病気やケガ、自然災害に気を付けて有意義に過ごして欲しい」との訓辞がありました。

臨時休業の影響により、例年より夏休みの期間が短くなり、二学期は八月二十六日（水）から始まります。また元気な姿で登校することを期待しています。



避難訓練

六月十六日（火）四校時に避難訓練がありました。今回は地震・津波・火災を想定した訓練でした。今回の訓練について烏山教頭は「いざという時は、慌てず冷静に判断し、自分の命は自分で守る行動を心がけて欲しい。またアルバイト先では、避難を誘導する立場となり、自分も他人も守らなければいけない。危機意識をもってこれかも真剣に取り組んで欲しい」と講師がありました。



新体力テスト

六月十九日（金）に新体力テストと身体測定が行われました。昨年と比べて、どれだけ記録が伸びたでしょうか。また身体測定では身長・体重・視力の測定、聴力検査が行われました。



授業の様子

五月十一日（月）より授業が再開され、それぞれの学年を覗いてみました。どの学年も一生懸命に授業に取り組んでいたの、ほっとしました。勉強とアルバイトの両立で大変だと思いますが、夢実現のためにも毎日の授業をしっかり頑張ってください。



3年生の様子

1年生の様子

4年生の様子

2年生の様子

清掃活動

授業が終わった二十時五十分から十分間、掃除が行われます。授業の時と違って水を得た魚のごとく、生き生きと笑顔で掃除をするので、とてもすがすがしい気持ちになります。勉強もこれくらい楽しくやってくれたらいいのに、私達の望みは、いつも生徒の笑顔に負けてしまいます。



校内球技大会

七月十七日（金）に校内球技大会が行われました。今回の競技はバドミントンと卓球で、学年の区分なしで行いました。バドミントンの決勝は、一点を争う好ゲームに、応援をしていた生徒から惜しみのない拍手が送られました。最後に、クラス対抗の長縄跳びが行われ、職員も参加するなど楽しいひとときを過ごしました。結果は次のとおりでした。

- バドミントン競技
- 男子の部
 (優) 勝三年 川原・羽田組
 (準優勝) 一年 羽田・樋渡組
- 女子の部
 (優) 勝四年 東・福井組
 (準優勝) 三年 長・櫻井組
- 卓球競技
 (優) 勝二年 山口
 (準優勝) 一年 西村
- 長縄とび
 (優) 勝四年生 一九九回



校内生活体験発表会

7月20日（月）本館5階 視聴覚室において生活体験発表会が行われました。審査委員として育友会会長の森千鶴さんが参加されました。各学年から選ばれた9名の代表者は、学校生活で感じたことやアルバイト先で学んだこと、将来の目標や希望などを緊張しながらも自分の言葉で一生懸命に発表しました。生徒の皆さんが日ごろ感じていることや思いや考えを知ることができて、皆さんの成長が感じられたいい発表会でした。審査委員を代表して、烏山教頭からは「これから定時制で学べることに誇りと自信をもって頑張ってください」との講評がありました。次年度はどのような発表がされるのかと、今から期待されます。発表者と演題は次のとおりです。

（発表順と演題）

- 1 上 妻 優 也（1年）「悔しさを糧に」
- 2 落 合 ほのか（2年）「学校とバイトで去年と違った思い」
- 3 山 口 亜 瑠（1年）「高校に入学して」
- 4 馬 場 希 希（2年）「レベル1から」
- 5 中 村 俊 洋（4年）「今思ふ事」
- 6 川 原 慶 翔（3年）「気持ち」
- 7 大 平 永（1年）「私だけの「普通」」
- 8 中 村 稀 良（3年）「将来について」
- 9 東 和 葉（4年）「夢について」



審査の結果、優秀賞に3年生の川原くん、3年生の中村さん、4年生の東さんの3名が選ばれました。なお、3年生の川原くんは9月27日（日）に長崎工業高校で行われる県大会に、本校の代表として参加することになりました。県大会でも益々の活躍を期待しています。

災害ボランティア活動

七月十六日（木）市災害ボランティアセンター主催のボランティア活動に生徒二十一名、職員八名、合計二十九名が参加しました。

七月六日からの記録的な大雨で被害を受けた大村市中岳町の民家での活動でした。家の中や周辺に大量の土砂が流入し、足の踏み場もない状況で、生徒たちは、泥まみれになりながら、家財道具の搬出や後片付け、泥かきなどを献身的に行いました。

予想以上の生徒がボランティアに参加し、真剣な面ざしできびきびと活動する様子を見て、生徒の成長に熱いものがこみ上げてきました。

活動の最後に、家主より感謝の言葉を頂き、生徒たちは「活動に参加してよかった」と満足した表情で、充実した2時間の活動でした。自然災害の脅威を肌で感じ、防災について考える良い機会であったと同時に、地元に対する愛情、地域に貢献する意識、相互扶助の精神を高める活動にも繋がりました。

この活動に対しテレビ局3社、新聞社1社、市広報が取材に來られました。生徒たちは、休憩の合間に行われた取材にも、誠実に対応していました。



ボランティア活動

七月十六日（木）の夕方より学校周辺を中心に、ボランティア活動を行いました。これは「長崎っ子の心を見つめる教育週間」の取り組みのひとつとして実施したものです。

通学路や公園には、タバコの吸い殻や空き缶、ビニールゴミなどが意外にたくさん落ちていたのでビックリでした。このような活動を通して自分自身の心や行動を見つめ直し、マナーや環境美化に対する意識を高め、成長することを期待しています。



生徒会役員

本年度の生徒会役員です。生徒会長の東さんを中心に、生徒総会や球技大会、もみじ祭など生徒会行事に意欲的に取り組んでいます。今年のもみじ祭は、どのような企画になるのか乞うご期待。



つぶやき

「普通ってなんだろう」生活体験発表の中で、この難しいテーマを題材に発表した生徒がいた。何が「普通」で、何が「普通でない」のか。普通をあまり意識せず、深く考えたことがなかったので新鮮であった。

七月の大雨で一瞬にして普通の生活が失われ、熊本県を中心に七十名以上もの命が奪われた。七十五年前には一発の原爆で何十万の尊い人々の命が奪われ、日常生活が奪われた。

八月九日（日）平和学習が行われる。今年には「松原の救護列車を伝える会」の講話を予定している。普段の生活や身近な事から平和について考える良い機会になればと思う。「普通」とは何か。今一度、真剣に考える時であるように感じる。